

令和6年度
学校関係者評価報告書

学校法人常陽学園
専門学校東京医療学院

令和6年度 学校関係者評価報告書

専門学校東京医療学院では、学校法人常陽学園の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」に基づき、医療専門職に必要な最新の知識と技術を学ぶとともに、障害をもつ人々の気持ちを理解し共感できる、優しい心を持った専門職人材を育てることを教育理念とし、その教育活動及び学校運営について自己点検・自己評価を実施しています。

さらに、当校の卒業生、関連業界及び地域住民等からなる「学校関係者評価委員会」を設置し、自己点検・自己評価の結果に基づいた、客観的で公正な評価を実施し、社会のニーズを踏まえた実践的な職業教育の実現を目指しております。

本校の今後の教育活動及び学校運営の改善にあたり、学校関係者評価委員会でいただいたご意見等を公表することで適切に説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくり及び関係業界への理解促進並びに連携協力に真摯に取り組んで参ります。

令和5年度 学校関係者評価委員会

<構成員>

委員長：古田 直弥 氏	【関連業界・卒業生】 理学療法士（社会福祉法人 浅草寺病院）
委員：河部 直紀 氏	【関連業界・卒業生】 理学療法士（有限会社総合リハビリ研究所 地域連携推進室室長・事業推進室室長）
梅村 悟 氏	【関連業界・卒業生】 理学療法士（ライオンズ整形外科クリニック）
高橋 友乃 氏	【地域住民】 医師、高橋医院（中央区八丁堀）院長
学 校 武田 淳史	専門学校東京医療学院 校長
川崎 孝晃	同副校長・理学療法学科 昼間部学科長
小堺 秀樹	同理学療法学科 夜間部学科長
和田 公利	事務長
束原 毅	事務室（書記）

<学校関係者評価委員による評価、意見等>

1. 教育目標及び、重点目標・計画について

(1) 重点目標1

年々、精神的な問題、症状を抱え治療を必要としている学生の割合が増加している。そのため、臨床心理士、精神科医などの専門医による直接的な対応の更なる充実が求められる。

(2) 重点目標2

理学療法士の教育に必要とされる設備は、最新のものが求められており、教育内容の充実につながる。本校もとくに機材の充実を図り、教育効果を上げるように努めている。

(3) 重点目標3

学生の実習先に関しては、学生が医療の一分野を担当する理学療法士として、主体的に行動の出来る学生像が求められ、充実した医療設備のある医療機関を増やしていくことが重要であり、日々各教員の努力により実習先医療機関の増加に努めている。

委員からの提言

最近、特に社会人向けに通学の負担が大きいと考えて、オンライン授業でほとんどの単位を取れる学校が出てきたが、御校では検討しているのか伺いたい。精神的な不安がある学生にとっては、満員電車に乗らなくてよい、クラスでの対人関係の悩みも少なくなるので検討してみてもどうか。

(学校の回答)

・学生自身が精神的な不調を自覚していない場合が多い。突然に電車に乗って具合が悪くなったから休む、記憶が飛ぶなどの症状を訴える学生もいる。少人数制を売りにしているため、多人数やコミュニケーションを苦手とする学生が集まりやすい傾向があるのか分からないが、近年は特に学生の精神面のケアが教員の業務の大きな負担となっている。

・教育の質を担保するためにはオンデマンドのみは不安がある。実技の授業では実際に人の身体に接することで体得できる技術もあり、教員との対話やコミュニケーションを通じて将来、その患者を治療するのに最適なりハビリを考え、実行する能力を培うことができると考えている。

・全科目をオンデマンドのみで行うのはいけないとの通達が出ている。

2. 教育活動・学修成果について

(1) 教育活動

・カリキュラム移行により顕在化した課題の改善に取り組み、解決を図った。総合臨床実習においては、学生負担を軽減するため近隣の実習施設を確保するとともに、実習前後の学内学修の拡充を行った。

・退学率低減のため学生個別の学習進度や精神状況に目を配り、一人ひとりに合った指導を心がける。

・夜間部では、昼間部からの3名の転科を承認した。昼間部での取得単位を一部認定し、履修科目数を軽減することで転科による物理的・精神的負担の緩和を図った。

・国家試験合格率向上目的にて ICT 教育含めた教育体制の強化を図った。優秀な成果を得られたと考えているため、1.2 年次においても ICT 教育体制の強化を検討したい。

(2) 学習の成果

国家試験の合格率

①昼間部 国家試験への教育体制強化により、国家試験合格率は 95.2%となり、前年度比(令和5年度)9.5ポイント増と目標を達成した。国家試験の合格率向上に向け、1~2年生は課外時間の活用、平日の放課後、休日における学校解放および補習さらには ICT の活用等により国家試験合格率が大幅に改善した。

②夜間部 国家試験合格率は、前年度(令和5年度)より低下し、目標未達成であった。(今年度合格率 76.9%、全国平均 95.2%)

委員からの提言

昼間部の合格率は目標を達成できて良かった。夜間部は次年度の巻き返しを期待したい。国家試験の合格率の良し悪しが翌年の入学者募集に大きく影響するため、先生方には引き続きご尽力賜りたい。

3. 学生の受入れ募集について

令和6年度の入学者は、昼間部が23名(定員9名不足)、夜間部は17名(同13名不足)となった。定員充足を目指して令和7年度は、夜間部限定の社会人特別入試において入試成績上位者に対し授業料の減免を導入した。同制度を利用して夜間部に8名が入学。今後も継続して取り組み、夜間部の定員充足を目指したい。

・令和7年度以降、指定校推薦制度の導入を検討し、高校訪問を積極的に行うなど、受験者

数の増加を図っていく。

・昨年度にご提言いただいた夜間部の名称を「4年制コース（夜間部）」の表記により夜間部という言葉の印象を和らげることを令和6年度より実施した。

委員からの提言

・定員充足に向け、高校生に頼るのでなく社会人の入学者を増やすのはどうか。引退した社会人のスポーツ選手のセカンドキャリアとして大変良いと思うので、そこにアピールしてはどうか。

・社会人向けの教育訓練給付や、政府の社会人向けリスキング支援制度など、活用できるものがあれば活用してみてもどうか。

（学校の回答）

新たに体育系大学の卒業生に入学してもらうため、大学訪問を行い、本校入試のPRに取り組んでいる。訪問する大学数をさらに増やして募集を図っていきたい。また、理学療法士推薦制度により、今年度も実習施設から何名か紹介していただいたが、より多くの理学療法士から推薦いただけるように同制度の周知に努めていく。

・社会人には大学、短大、専門学校の卒業生向けの減免制度設置を検討する。

・高校生には指定校推薦制度による減免を高校訪問など通じて周知していく。

4. 学生支援について

(1) 当校独自の経済的修学支援制度（表彰制度等）を、より広く周知し経済的に不安を抱える学生が気軽に相談できる体制を構築すると共に、更なる支援策の充実を図る。

(2) 学生加入保険の費用を当校と負担とする他、学校保健安全法に定められた感染症への対策を充実させる。

委員からの提言

成績優秀者への表彰はもちろんだが、成績下位学生は経済的に恵まれない傾向があるのではないかと思うので、経済的に恵まれない学生への独自支援があるとよい。

（学校の回答）

募集定員割れの現状や予算の問題も考慮し引き続き努力して参りたい。

5. 地域貢献・社会貢献について

東京都中央区の依頼に基づき、区が管轄する審査会に当校の専任教員を派遣している。また、同じく中央区が主催する介護予防事業「通いの場支援事業」にも当校の専任教員が参加している。また、中央区の小中学校に出向いて小学生に車いす体験を実施し好評だった。

委員からの提言

- ・理学療法士協会でも広報しているが、厚生労働省の「エイジフレンドリー補助金」というものがあり、医師などの専門家による体力チェックや運動指導を導入する中小企業に出る補助金がある。そこに今年度から「転倒防止や腰痛予防のためのスポーツ・運動指導コース」というものが新設され、理学療法士がその指導者の役割を担うことができることになった。私の勤務先でも地域の中小企業に出向いて運動指導などを行っているので、御校でも地域貢献として検討されてはいかがか。
- ・ピラティス（ヨガとは違うエクササイズ）がプロ野球界で流行っている。また動物理学療法（競走馬が有名）というものがある。参考になればいいが、ニーズがあるようならカリキュラムにとりいれてみたらどうか。

（学校より）

本日は貴重なご意見をいただき、感謝申し上げたい。本日もご提案いただいたことを今後の学校運営に活かして参りたい。委員の皆様には引き続きご協力を申し上げたい。

以上